

## 指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	教育庁 体育保健課
評価対象期間	令和3年4月1日～令和4年3月31日

## 1 指定概要

施設概要	名称	大分県立庄内屋内競技場	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	由布市庄内町大籠1314		
	設置目的	県民の体育及びスポーツの振興を図り、健康で文化的な生活の向上に寄与するため。		
指定管理者	名称	由布市		
	代表者名	由布市長 相馬 尊重		
	所在地	由布市庄内町柿原302番地		
指定管理業務の内容	①スポーツ施設の維持管理及び修繕に関する業務 ②スポーツ施設の利用の受付及び案内に関する業務 ③スポーツ施設の利用の許可に関する業務 ④スポーツ施設の利用の促進に関する業務 ⑤その他教育委員会が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日(5年間)			

## 2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	
1	施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み
	(1)施設の設置目的の達成
	①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。
	②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。
	③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。
	④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。
	【所見】
	○ 県内唯一のライフル射撃競技場であり、令和3年度も感染症防止策を講じ、各種大会を開催した。県ライフル射撃協会と由布高校ライフル射撃部が週5～6回程度練習を行っているが、新型コロナウイルス感染症拡大による活動制限の影響もあり、7,800名の目標利用者数に対し、実績6,202名(79.5%)であった。
	○ ライフル射撃での利用者数は、令和2年度と比較し、146名増(令和2年度4,451名、令和3年度4,597名)103.2%であった。
	○ 施設の管理運営については、施設の維持管理が主なものであり、ライフル射撃の利用にあたっては、射撃管理者または射撃従業者が必要なため、ライフル射撃協会と連携し、適切な管理運営を行っている。

○ ライフル射撃協会の体験射撃及び由布高校射撃部の協力の下、小・中学生を対象としたビームライフル体験を行い、競技人口の増加及び利用者の増加に努めている。

(2) 利用者の満足度

① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。

② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。

③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。

④ 利用者への情報提供が十分になされたか。

⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

○ 由布市HPからオンラインで利用者調査を行えるようにし、意見・要望を投稿できるようにしている。また、随時、利用団体からの要望把握にも努めている。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

① 施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。

② 清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

【所見】

○ 隣接する庄内総合運動公園の施設と一体的に管理することで、効率的な運営を実施している。

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。

【所見】

○ 社会人が利用しやすいように利用時間は午後10時までとしている。また、木曜日には硬式テニスが午後9時まで、金曜日にはソフトテニスが午後9時半まで利用している。

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況

① 施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。

② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。

③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

【所見】

○ ライフル射撃の利用にあたっては、公安委員会登録の管理者、従事者が射撃場の管理を行うこととしており、委託職員、市教育委員会職員スポーツ振興課とも連携を図ることで安全利用に努めている。

○ 通常は委託職員1名で対応しているが、イベント時には市教育委員会スポーツ振興課等が応援体制をとるようにしている。

## (2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

- ①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。
- ②施設の利用者の個人情報を守るための対策が適切に実施されているか。
- ③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。
- ④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。
- ⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。
- ⑥防犯や事故等の危機管理体制、防災士の配置など、防災に係る体制が適切であったか。
- ⑦防災に関する研修・訓練が効果的に実施されていたか。
- ⑧事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

## 【所見】

- 施設管理マニュアル、事故等対応マニュアルに沿った管理体制がとられている。また、緊急時の組織体制は防災士がいる市防災安全課と連携することとしている。
- 市の規則等に準じた取り扱いを行っている。

## 【総合評価】

## 【所見】

- 目標者数7,800名には及ばなかったが、施設の利用者数及びライフル射撃競技人口を増加させるため、感染症対策を講じた上で、体験射撃会を行ったことは評価に値する。
- ライフル競技以外の利用で、由布市中学校総合体育大会のソフトテニス競技が実施されたことや、由布市内の小中学生を対象としたフライングディスクゴルフの実施など、新たな活動について施設が活用されたことは、評価に値する。

## 【今後の対応】

- 県内唯一のライフル射撃競技施設であり、競技団体と連携したライフル射撃の競技力向上により、ライフル射撃競技の認知度の向上及び競技人口の拡大を期待する。

## 【指定管理者評価部会の意見】

## 【評価】

1. 利用者数の増加に向けて、ライフル射撃以外の施設利用方法の創出を強化すべき。

## 【意見】

1. 由布市として指定管理を受けているので、管理を受け持つ部署だけでなく、由布市全体として施設の活用に取り組むべき。
2. 施設の活用に向けて、市民に意見を聴くなど、市民を巻き込んだアイデア創出にも取り組んでほしい。

## 【施設所管課に対する意見】

1. 現状、サービス向上やコスト削減の効果が見込めないため、指定管理者制度を導入する必要はないのではないかと。
2. 施設として存続させるためには、あらゆる手段で利用者数の増加していく必要がある。関係者で新たな利活用方法を創出できないのであれば、SNSを活用し、全国に利活用方法を募る方法もある。
3. 九州・全国・東アジアに目を向け、立派な施設と湯布院に所在する立地を活かし、合宿や試合の誘致に力を入れるべき。
4. 県としてライフル競技の強化を図っていることを、県民と共有できる取り組みをしてほしい。